

## Lesson4

# 文型 (SVO) / 失敗は成功のもと

## Failure teaches success

日本語の感覚に似ているので、最も馴染みやすい文型かもしれません。SVO型は主語(S)、述語動詞(V)、目的語(O)の3つの構成要素から成り立ちます。SVO型ではO(目的語)は動詞の対象となっている点に注意してください。Failure teaches successはSVO型となっています。

このレッスンを受講することでSVO型について理解できます。

## Topics

### 文型(SVO)/ Failure teaches success

**Topic1** SVO型の構成と例文

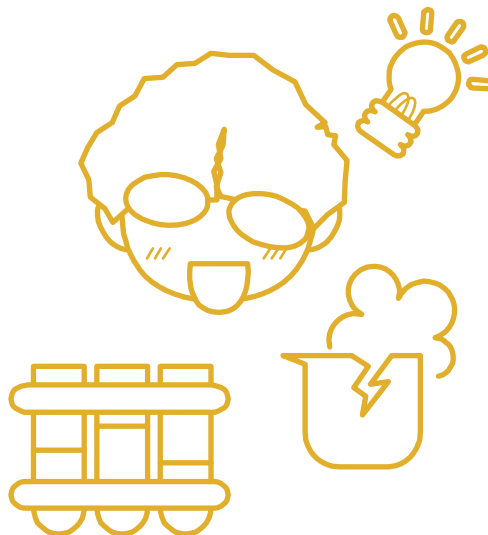
**Topic2** 目的語になるもの

- 名詞
- 動名詞
- 不定詞
- 名詞節

### Wrap-up

DVD版では練習問題の解説も行います。

## Failure teaches success.



## ■ Topic1

### SVO 型の構成と例文

**SV**、**SVC** と同様 **S** は主語、**V** は述語動詞の意味です。**SVO** では今までに出てこない **O** (目的語) が出てきます。**I bought a guitar.** 「私はギターを買いました。」という文では、**I** が主語、**bought** が述語動詞、**a guitar** が目的語となります。目的語は動詞の対象となっており、名詞や名詞に相当する語(句)が入ります。「～を」「～に」という意味に相当する場合も多いのが特徴です。

**Lisa likes green tea.** 「リサは緑茶が好きです。」

主語(S)名詞 Lisa (リサ)	述語動詞(V)動詞 likes (好きです)	目的語 (O)名詞 green tea (緑茶)
----------------------	---------------------------	-----------------------------

**Lisa and Tom must find a new apartment by the end of the month.**

「リサとトムは月末までに新しいアパートを見つけなくてはなりません。」

主語(S) 名詞+接続詞+名詞 Lisa and Tom (リサとトム)	述語動詞(V) 助動詞+動詞 must find (見つけなくてはならない)	目的語(O) 形容詞+名詞 a new apartment (新しいアパート)	追加情報 前置詞+冠詞 +名詞+前置詞+冠詞+名詞 by the end of the month (月末までに)
---	---	--	--

**The board members are discussing issues regarding work safety.**

「役員会のメンバー達は労働安全に関する問題について議論しています。」

主語(S)名詞 the board members (役員会のメンバー、役員達)	述語動詞(V) be 動詞+～ing 形 are discussing (議論している)	目的語(O)名詞 issues (問題、課題)	追加情報 前置詞+名詞 regarding work safety (労働安全について)
--	---	-------------------------------	--

## ■ Topic2

### 目的語になるもの

目的語になることができるのは名詞、代名詞、動名詞、不定詞、名詞節などです。

#### ●目的語が名詞：

**Lisa read the book yesterday.** 「リサは昨日その本を読みました。」

**the book** 「その本」(冠詞+名詞) が **read** の目的語となっています。

●目的語が動名詞（動詞の ing 形）：

**Tom likes swimming.** 「トムは泳ぐのが好きです。」

この文では **swimming** 「泳ぐこと」（動名詞）が目的語になっています。

**Tom likes living in Tokyo.** 「トムは東京に住むことが好きです。」

**living in Tokyo** 「東京に住むこと」（動名詞句）が目的語の役割を果たしています。

●目的語が不定詞（to+原形動詞）：

**Lucy wanted to sing.** 「ルーシーは歌いたかった。」

**to sing** 「歌うこと」（不定詞）が **wanted** の目的語になっています。

**Tom likes to play tennis.** 「トムはテニスをするのが好きです。」

**to play tennis** 「テニスをすること」（不定詞句）が **likes** の目的語となっています。

●目的語が名詞節：

**I think that Tim is a good teacher.** 「私はティムはいい先生だと思います。」

**Tim is a good teacher** 「ティムはいい先生です」が **that** 節として **think** 「思う」の目的語となっています。

**The shopkeeper said that the shop was closed that day.**

「店主はその日は店を閉めていたと言いました。」

**the shop was closed that day** 「その日は店が閉まっていた／閉めていた」が **that** 節として **said** 「言った」（say の過去形）の目的語となっています。

## スコアアップ!

(DVD 版のみ収録)



## ●注意すべき他動詞

(例題) Mr. Brown \_\_\_\_\_ about the matter.

- a. discussed
- b. described
- c. mentioned
- d. talked

**Mr. Brown talked about the matter.** 「ブラウン氏はその件について話しました。」ここでは、**about** をつけることができる **d. talked** が正解になります。日本語の表現では「～について議論する」のように「～について」とあるため、英語でも **about** を付けるように思えます。でも、**discuss, describe, mention** は他動詞なので **about** は不要です。

下記の動詞は他動詞なので ( ) 内の前置詞は不要です。覚えておくと得するかもしれません。

誤	正
attend ( <del>at</del> ) a meeting	attend a meeting 「会議に出席する」
consider ( <del>about</del> ) the matter	consider the matter 「その件について考える」
contact ( <del>with</del> ) the police	contact the police 「警察に連絡する」
describe ( <del>about</del> ) what happened	describe what happened 「何が起こったのか説明する」
discuss ( <del>about</del> ) the problem	discuss the problem 「問題について議論する」
explain ( <del>about</del> ) how to use it	explain how to use it 「どのように使うか説明する」
mention ( <del>about</del> ) their contribution	mention their contribution 「彼らの貢献について述べる」
resemble ( <del>like</del> ) her father	resemble her father 「彼女の父親に似ている」

注意 : **talk** の場合は **talk about** ~ 「～について話す」と **about** をつけますが、自動詞か他動詞かということは個別に注意して覚えるしかありません。

## 似ているようで似ていない SVC と SVO

SVC 型と SVO 型は両方とも 3 つの部品で構成されていますが、それぞれの部品の関係は大きく異なっています。

**Mr. Wood is a doctor.** 「ウッドさんは医師です。」では **Mr. Wood = a doctor** という関係が成り立つので SVC 型となっています。

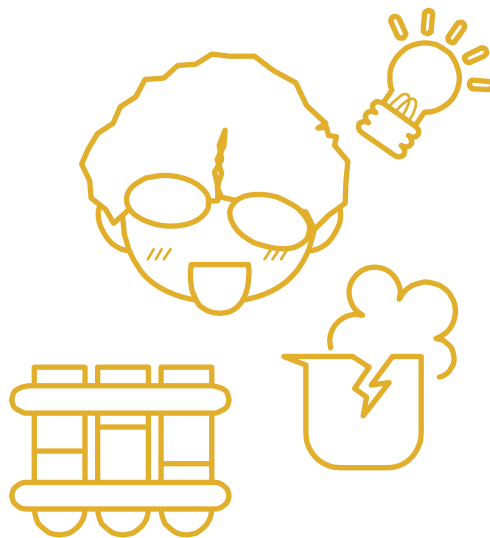
**Mr. Wood met a doctor.** 「ウッドさんは医師に会いました。」では **a doctor** は **met** (述語動詞) の目的語で「会う」という動作の対象となっています。そのため、この文は SVO 型となります。

このように「イコールの関係」か「動作の対象となるか」がポイントです。

コーヒーブレイク (DVD 版のみ収録)

## Wrap-up

- SVO 型は主語、述語動詞、目的語により構成される。
- 名詞、代名詞、動名詞、不定詞、名詞節などが目的語になる。



Failure teaches success

「失敗は成功のもと」

主語(S)	述語動詞(V)	目的語
Failure (失敗)	teaches (教える)	success (成功)

## Practice

先生の解説を聞き、下記の練習問題を解いてみましょう。(DVD版のみ収録)

1. We want \_\_\_\_ on the plan.
  - a. inform
  - b. informed
  - c. informative
  - d. information
2. The president finally \_\_\_\_ the decision to stop the project.
  - a. came
  - b. made
  - c. remained
  - d. became
3. Some \_\_\_\_ attended the meeting.
  - a. employ
  - b. employees
  - c. employing
  - d. employment

## Homework

このレッスンに関連した下記の練習問題に挑戦してみましょう。

1. Mr. Adams \_\_\_\_ this employee management system.
  - a. developed
  - b. developing
  - c. development
  - d. was developed
2. Some people like \_\_\_\_ while taking a shower.
  - a. sing
  - b. singing
  - c. sang
  - d. and
3. Few researchers believe \_\_\_\_ their invention will reduce energy loss.
  - a. in
  - b. that
  - c. what
  - d. because

## Explanation - Practice

1. **We want information on the plan.** 「私達はその計画についての情報が欲しいです。」

解説： **d. information** 「情報」(名詞)を入れると **SVO** 型の文になります。 **information on** ~ で「～についての情報」という意味になります。

**want** の目的語に入れる名詞を選びます。問題文から「何かを」欲しがっているということが想像できます。「～を」ということから、ここには目的語として適切な物を選ばないと考えられます。

目的語になるのは、名詞、代名詞、動名詞、不定詞、名詞節です。

つまり、ここでは原形動詞や形容詞をつけたりすることができないため、**a. inform** 「知らせる」(動詞)は不可です。**to inform** (不定詞)となっていれば目的語として **want** につなげることができます。でも、この選択肢には **to** がないので、ここに入れることはできません。**b. informed** 「知らされている、知らせた」(形容詞、動詞の過去形・過去分詞)、**c. informative** 「参考になる」(形容詞)では目的語になりません。

2. **The president finally made the decision to stop the project.**

「社長はついにそのプロジェクトを中止する決断をした。」

解説： **b. made** 「～を作った、～を行なった」(動詞の過去形)を入れると **SVO** 型の文になります。**president≠the decision** となるので、**the decision** が目的語となりそうです。そのため、後ろに目的語をとれる他動詞を選びます。(自動詞と他動詞についてはレッスン 14 で学習します) 選択肢には動詞が並んでいます。それぞれの動詞の意味を検討すると、**made** が最も自然であると判断できます。また、**a. came** 「来た」(動詞の過去形)は自動詞なので前置詞が必要です。**c. remained** 「～のままでいた」(動詞の過去形)と **d. became** 「～になった」(動詞の過去形)には **SVC** 型の使い方がありますが、**the decision** は目的語なので **SVC** 型にはなりません。

3. **Some employees attended the meeting.** 「数人の従業員達が会議に出席した。」

解説： **b. employees** 「従業員達」(名詞の複数形)を入れると **SVO** 型の文が成り立ちます。主語の位置に入る名詞を選ぶ問題です。問題文の **attended the meeting** から、主語としては人を意味する名詞が入ることが想像できます。

**a. employ** 「雇う」は動詞です。また動詞の原形なので過去形の動詞の前につけられません。**c. employing** 「雇うこと」(動詞の **ing** 形)は動名詞として主語に入れることは可能ですが意味が成り立ちません。「会議に出席した」の主語は人を意味する名詞が良いです。**d. employment** 「雇用」(名詞)も主語にすることはできますが、同様の理由で意味がとれないのでダメです。

## Explanation - Homework

1. **Mr. Adams developed this employee management system.**

「アダムス氏がこの従業員管理システムを開発しました。」

解説： **a. developed** 「開発しました」(動詞の過去形)を入れると **SVO** 型の文が成り立ちます。 **Mr.**

‘Adams(S)’が‘this employee management system(O)’を「どうしたのか?」という文を構成する動詞を選ぶ問題です。

述語動詞が必要ですが **b. developing** 「開発すること」(動詞の **ing** 形) だけでは述語動詞になることはできません。**be** 動詞が必要です。**c. development** 「開発」(名詞) では文が成り立ちません。**d. was developed** 「開発された」(受身形: **be** 動詞+過去分詞) を入れると意味としても「アダムス氏が開発された」のようになりますし、後ろともうまくつながりません。そのため、**developed** 「開発しました」が最も適切であると判断できるのです。

## 2. Some people like singing while taking a shower.

「シャワーを浴びながら歌うのが好きな人達があります。」

解説: **b. singing** 「歌うこと」(動詞の **ing** 形) が答えです。

動名詞を **SVO** 型の目的語として使えることをポイントとする問題です。

**a. sing** 「歌う」(動詞) は **to sing** であれば不定詞になり目的語として入れることが可能です。動詞の後ろに **c. sang** 「歌った」(動詞の過去形) を入れることはできません。**d. and** 「～と～」(接続詞) では、**while** が動詞であれば **taking shower** が目的語になると考えることもできますが、**while** は動詞でないので文が成り立ちません。

## 3. Few researchers believe that their invention will reduce energy loss.

「彼らの発明がエネルギー損失を減らすだろうと信じている研究者はほとんどいません。」

解説: **b. that** 「～ということ」(接続詞) が正解です。**that** 節が目的語として利用されることを見極めることがポイントです。**believe** には自動詞と他動詞の両方の使い方があります。「何を信じるのか?」ということから想像すると、何らかの目的語が必要となることが見えてきます。そして、ここでは後ろに **believe** の目的語として **that** 節をつなげると意味の通る自然な文になることが分かります。**that** は省略することも可能ですが、選択肢の中でここに入れられるものは **that** しかありません。

**a. in** 「～の中に」(前置詞) を入れると **believe in** ～「～を信じる」という熟語が成り立ちますが、**in** の後ろに **that** 節をつけることはできません。**c. what** 「何、～するもの」(疑問代名詞、関係代名詞) は後ろともうまくつながりません。**d. because** 「なぜならば」(接続詞) にすると **believe** の目的語がなくなってしまいます。

### 注意:

**what** (関係代名詞): **what** には先行詞が含まれるため、**Few researchers believe what their invention will reduce energy loss.** とはできません。それは、節に **their invention** (主語) や **energy loss** (目的語) があるためです。少し不自然ですが、**Few researchers believe what their invention will reduce.** (目的語を受ける例) や **Few researchers believe what will reduce energy loss.** (主語を受ける例) であれば文法構成上は可能な文になります。